

感 覚 運 動 の 指 導

目 次

○ 指導計画作成の立場	43
○ 活用上の留意点	44
○ 活動内容一覧表	45
○ 指導計画	
• 感覚入力段階	46
• 粗大運動段階	54
• 知覚・運動段階	65

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

子どもたちの様子を見てみると、身体の形態上問題はないのに、両手・両足を一緒に使ったり、動作を模倣したりできない、耳が聞こえるようなのに、名前を呼んでも返事をしないなどといった問題があり、その結果、日常生活で様々な支障をきたすことが多い。このような原因として、外界の情報を受け入れ、処理し、行動として反応する感覚—中枢神経系—運動といった一連の過程がうまく機能を果たしていないことが考えられる。

この一連の過程は、環境からの情報を適切に受け入れる（入力）、その受け入れた情報をもとに動きを意図し指示する（情報処理）、それらを身体各部位に伝達する（出力）、動きがフィードバックし動きの意図や努力に修正をもたらす（入力）といった働きがある。どの働きでも、その一つが十分に機能していないと環境からの情報をうまく受け入れ、処理できず、適切な行動をとることができなくなる。このように考えてくると、前述した問題は、自分の身体に関する情報がうまく処理されなかったり、人が自分の名前を呼んでいるという情報を周囲の声や音から区別して受け止めることができなかつたりするためだと言することができる。

ところで、感覚—中枢神経系—運動における発達は次のように考えられている。①触覚、前庭覚、固有覚という感覚を入力する段階。②それらの感覚を基に、身体知覚、運動企画が発達し、全身を使って運動する粗大運動段階。③粗大運動の段階から、手足の操作が発達し、視覚によって環境からの情報を受け入れ、手・足によってその情報を確認する知覚・運動段階。

感覚運動の指導とは、感覚—中枢神経系—運動といった一連の過程に問題がある子どもたちに対して、その発達を促すような活動ができるような環境を設定して、適切な感覚—中枢神経系—運動の結びつきができるようにし、前述した①→②→③の発達を導こうとするものである。

以上のような考え方に基づいて、感覚入力段階、粗大運動段階、知覚・運動段階の3段階の指導計画を作成する。

(2) 目標

- はげやブラシなどを使って、身体各部位をこすったり、スクーターボードやチューブぶらんこを使ったりする活動を通して、触覚、前庭覚、固有覚の入力を図り、感覚統合をすすめるようにする。
- 滑る、くぐる、渡る、模倣して身体を動かすなどの活動を通して、身体知覚、運動企画などの能力を高めるようにする。
- 目と手の協応、形の認知・弁別、形の恒常性の認知、図—地の弁別、全体—部分の関係、空間関係・位置の知覚などの活動を通して、視知覚や巧み運動の能力を高めるようにする。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 指導内容は、子どもたちの実態に合わせて、独自に考えたり、エアーズ、ケファート、フロスティッグや先進校の研究を参考にしたりして作成した。
- ② 感覚運動を、感覚入力段階、粗大運動段階、知覚・運動段階の三つの段階に区分した。そして、感覚入力の段階を、触覚・固有覚を中心とした活動と前庭覚・固有覚を中心とした活動、粗大運動の段階を、身体知覚を中心とした活動と運動企画を中心とした活動、知覚運動の段階を、目と手の協応、図形と素地、知覚の恒常性、空間における位置と空間関係の領域に分け、指導計画を作成した。
- ③ 授業時数は、20分を1単位時間とし、週4回、4単位時間とし、年間35週で配当する。

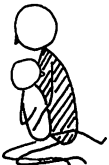
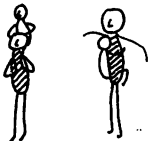



2 活用上の留意点

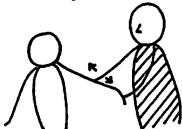
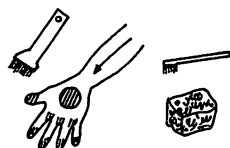

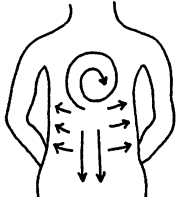

- (1) 活動は、子ども一人ひとりの実態に応じて、指導計画の中から選ぶ。その際、活動時間、量、教材・教具の与え方、配置などに配慮する。
- (2) 活動は、子どもの自発性を重んじ展開するが、経験していない活動や抵抗を示す活動も楽しく取り組むことができるように、教師は子どもの活動を援助したり、共に活動したりする。


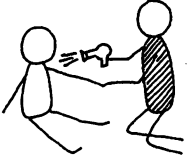
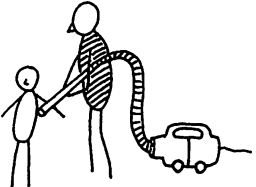


活動内容一覧表


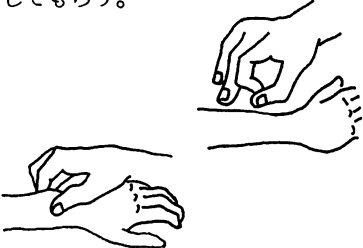
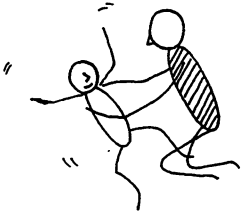
段階	感覚入力段階		粗大運動段階		知覚・運動段階			
領域	触覚・固有覚入力	前庭覚・固有覚入力	身体知覚	運動企画	目と手の協応	図形と素地	知覚の恒常性	空間における位置関係
活動	1. スキップ 2. 息の吹きかけ 3. なでる・こする活動 4. ドライヤー 5. 掃除機 6. 圧迫する活動 7. たたく・つまむ活動 8. くすぐる活動 9. その他	1. スターボード 2. チューブトンネル 3. チューブぶらんこ 4. トランポリン 5. ローリングソーサー 6. 身体を揺る回してもらう活動	1. 筋肉の緊張・弛緩 2. いろいろな姿勢 3. 模倣歩き 4. 手や足を動かす活動 5. 身体各部位を動かす探す活動	<平衡性> 1. 平均台 2. ジャンピング台 3. バランスボウル 4. トランポリン <協応性> 1. スターボード 2. 滑り台 3. ジャングルジム 4. トンネル 5. ミニハードル 6. タイヤ 7. ロープ 8. はしご	1. 手、指遊び 2. ボルト・ナット通し 3. 指なぞり 4. 輪郭なぞりと色塗り 5. ビーズ通し 6. はさみで紙を切る活動 7. 紙をはる活動	1. 弁別活動 2. 分類活動 3. 図形や立体を扱う活動	1. 三次元の事物を二次元の平面に置き換える活動 2. 大きさ・形・色による分類 3. 図形や立体を扱う活動	1. 身体と事物との位置関係 2. 身体・左右の識別 3. 自分の左右にある事物の識別 4. 事物相互の位置関係 5. 図形の回転、並びかえ 6. 積木並べ 7. 積木相互の位置関係 8. 玉さし盤 9. 積木での模様作り
ページ	46 ~ 53		54 ~ 64		65 ~ 74			


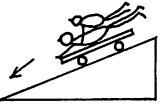

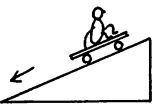
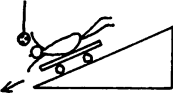

感覚入力段階



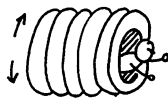
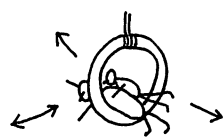
段階	感覚入力	領域	触覚, 固有覚を中心とした活動
目標	やさしく抱きしめたり, はげ, ブラシ, スポンジ等で身体の各部位を刺激したりする活動を通して触覚系の正常化を促す。		
主な学習活動・内容	留意点	準備等	
<p>1. だっこ・おんぶ・肩車などをしてもらう。</p>   <p>2. 顔, 耳, 手足などに息を吹きかけてもらう。</p>  <p>3. 腕や手に口をあてて音をたてながら吹いてもらったり, 吸ってもらったりする。</p>  <p>4. 毛布やタオルのシーツの上で寝たり, 身体をくるんだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ だっこ・おんぶ・肩車などのスキンシップは, 幼児期において欠くことができないもので, 多量の前庭刺激や触刺激などを含んでいるといわれている。 ○ 情緒の安定や教師とのコミュニケーションの向上に役立つので, だっこなどをしてから, 次の活動へ移るとよい。 ○ はげ, ブラシなどによる手, 腕, 顔背中などへの刺激に対して不快感をったり, いやがったりする場合は過反応とし, 逆に皮膚への刺激を要求しつづける場合は, 低反応とする。 ○ 刺激の与え方は, 一人ひとり異なるので十分注意するようにする。 ○ 触刺激を与える際には, 子どもに用具・材料・与え方などを選ばせてもよい。このことは, 子どもが楽しい・快いという触刺激が, 中枢神経系の組織化に役立っていると考えられているからである。 ○ 息を吹きかける際は, 見える部位から, 次第に見えない部位へと移っていく。また, ストローで一か所に集中して吹きかけ, 気づきやすいようにする。 ○ 過反応の子どもは, 初めは毛布やシーツの上で活動させ, 身体全体から刺激が入るようにする。 	<p>・ストロー</p> <p>・毛布</p> <p>・タオルのシーツ</p>	

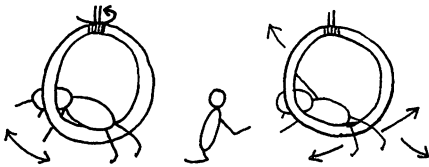
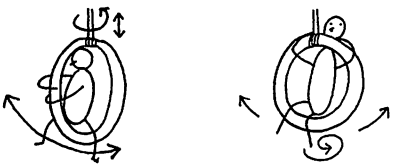
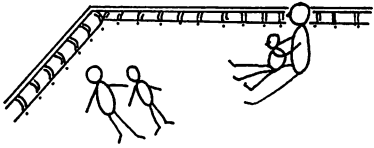

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>5. いろいろなもので身体を触ったり、こすったりしてもらう。</p> <p>(1) 手のひらで、身体をなでたりこすったりしてもらう。</p>  <p>(2) はけ、ブラシ、スポンジ、タオル、ビロード布などで身体の各部位をなでたり、こすったりしてもらう。</p>    	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブラッシングは、手の甲、腕などから始め、子どもが受け入れられるようなら、背部、腹部、首、顔へと刺激を広げるようにする。 ○ はけ、タオルなどの用具は、硬いものや柔らかいものなどを準備し、いろいろな刺激を与えられるようにする。 ○ 過反応の子どもは、自分の手や自分で選んだもの（羽毛はけなど）で刺激するようにし、受け入れやすくする。 ○ 低反応の子どもには、硬めのはけ、スポンジ、ブラシなどを使うようにし、刺激されていることがわかるような強い刺激から始める。 ○ 過反応の子どもには、体毛に逆らったり、正中線を越えるようなブラッシングはしないようにする。 ○ 軽く、速くこする触刺激は、網様体賦活系に対して高い興奮性を持つためてんかん発作を起こしやすい状態を作り出す。子どもの障害に応じて、刺激の与え方を考慮する。 ○ 刺激を怖がる子どもには、他の子どもが刺激を受けて楽しんでいるのを見せたり、刺激されている部分を見せたりして、刺激への恐れを減らすようにする。 ○ 刺激を与えている時、どこを触れているかしっかり見させ、自分の体の部位を意識させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はけ ・ブラシ ・スポンジ ・羽毛はけ ・ビロード布 ・なめし革 ・タオル ・お風呂アカスリ ・フェイスブラシ

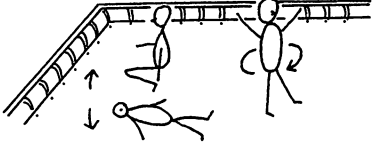



主な学習活動・内容	留意点	準備等
 <p>6. 手や足などにドライヤーをあててもらおう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口のまわりを刺激することは、直接発声を促し、手や指を刺激することは、指先の活動を促すと考えられている。 ○ 髪は、最も抵抗の大きい箇所なので、無理に行うのは避けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライヤー
 <p>7. 吸乳器や掃除機などで吸いとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドライヤーを使用する際は、一か所に長い時間あてたり、送風口をなめたりしないように十分注意する。 ○ 温風や冷風を交互にあて、あたたかい、冷たいなどの温度を感じとる感覚を刺激するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吸乳器 ・掃除機
 <p>8. 身体のあちこちをもんでもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掃除機は、刺激が強いので過反応の子どもやいやがる子どもには、無理やりさせないようにする。 ○ おす刺激は、こする刺激とは逆に興奮を抑える働きがあるといわれている。このことから、触覚とは、はっきり区別して刺激を与えるようにする。 	
 <p>9. ぎゅっと抱きしめてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身体をもむ時は、手や足など受け入れやすい所から始め、慣れてきたら他の部位をする。 	
 <p>10. 腹臥位や背臥位になり、マットをのせ圧迫してもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過反応の子どもでも、そっと抱かれる（触覚）のはいやがっても、ぎゅっと抱きしめられる（圧覚）のは喜ぶことがあるので、刺激を与えて子どもの反応を見るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールマット ・マット
<p>11. おしくらまんじゅうをする。</p>		

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>12. 手のひらで身体のあちこちをタッピングしてもらおう。</p>  <p>13. 手、足、背中をつまんだり、はじいたりしてもらおう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 痛覚刺激を与える時は、子どもがいやがるのを無理やりたいたり、子どもを傷つけたりすることがないようにする。 ○ 過反応の子どもや他人に対して恐れのある子どもには、この活動はしないようにする。 ○ 低反応の子どもや自傷行為のある子どもは、強い刺激を要求してくるが、痛覚刺激だけでなく、多くの種類の皮膚感覚刺激を与えるようにする。 	
<p>14. くすぐってもらおう（強く、弱く）。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ わきの下、あごの下、わき腹、足の裏などの中から、適当な場所を選んでくすぐるようにする。 ○ くすぐる時には、子どもにはっきりとわかるように、これからくすぐるぞという態度をとったり、「コチョコチョ」などと声かけをしたりしながらする。 	
<p>15. 「いっぼんばしこちょこちょ」をする。</p> <p>16. その他</p> <p>(1) 発泡スチロール・おがくずの入った箱の中へ入る。</p> <p>(2) セロテープをはり、自分ではがす。</p> <p>(3) 脚やお尻などをピコピコトンカチでたたく。</p> <p>(4) 熱い（冷たい）おしぼりで顔や手をふく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いっぼんばしこちょこちょ」などのあそび歌をうたいながら、たたく・つまむ・つねる・くすぐるなどの活動を行うようにする。 ○ その他の活動として、こする・吹きかける・すいとる・粘りつくなど素材の組み合わせによって、いろいろ工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発泡スチロール ・おがくず ・セロテープ ・ピコピコトンカチ ・おしぼり

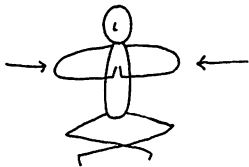
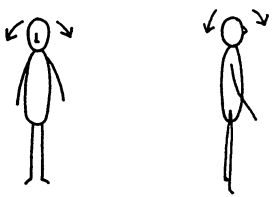
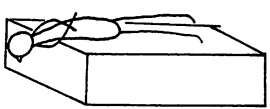
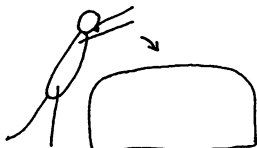
段 階	感 覚 入 力	領 域	前庭覚, 固有覚入力を中心とした活動
目 標	○ スクーターボードで坂をすべったり, チューブトンネルに乗って揺らしてもらったり, チューブブランコに乗って揺らしたり, トランポリンで跳んだりする活動を通して, 前庭系の正常化を促す。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等	
<p>1. 腹臥位, 背臥位, 座位などでスクーターボードに乗って坂をすべる。</p> <p>(1) 抱いてもらったり, 背に乗せてもらったりして坂をすべる。</p>   <p>(2) 腹臥位, 背臥位などになって, 頭や足を先にして坂をすべる。</p>   <p>(3) ボールや目標物にむかって, 坂をすべる。</p>  	<p>○ スクーターボードの大きさは, 子どもの頭や胸の上部, 足が端より出て, しかも身体の中央部を支えることができるのが適当である。</p> <p>○ スクーターボードに乗ることからおこる前庭覚刺激や固有覚刺激は, 触覚防衛をもつ子どもの触覚系を正常化するうえでも役立つといわれている。</p> <p>○ 活動中に, 顔色がわるくなる, 異常に発汗する, はき気を訴えるなどの様子がみられた時は, 中止する。</p> <p>○ 一人で坂をすべるのをこわがる子は教師と一緒にすべったり, 坂の傾斜をゆるやかにしたりする。</p> <p>○ いくらでも刺激を求める子には, すべる速度をあげてやったり, 傾斜を急にしたりする。</p> <p>○ スクーターボードに乗ったとき, 気持ちがよいように, 布で覆うとよい。</p> <p>○ 集団で行う場合, スクーターボードですべる付近に他の子どもを近づけないようにする。</p> <p>○ スクーターボードで坂をすべるのに慣れたら, 天井からボールをつるしてそれを打たせたり, トンネルを通り抜けさせたりする。</p> <p>○ スクーターボードに腹臥位で乗った時, 手, 足をのばすように, 声かけをする。</p>	<p>・スクーターボード</p> <p>・スロープ</p> <p>・ボール</p> <p>・トンネル</p>	





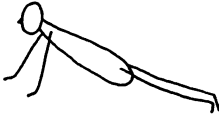







主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>2. チューブトンネルに腹臥位や背臥位で乗り、ゆっくり動かしてもらったり、中に入りこころがしてもらったりする。</p> <p>(1) 腹臥位で乗って、手や足を持って、前後に揺らしてもらおう。</p>  <p>(2) 背臥位で乗り、足をも持って前後に揺らしてもらおう。</p>  <p>(3) 中に入り転がしてもらおう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めは、手の方をもち、少し足が床から離れたらすぐ戻るような感じで静かに、不安感を与えないように揺らす、慣れたら、だんだん大きく揺らすようにする。 ○ 活動中に顔が悪くなる、はき気を訴えるなどの様子がみられた時は、中止する。 ○ 足の方を持つときは、特に名前を呼んだり歌をうたったりして、安心感をもたせるようにする。 ○ できるだけ力を抜いた姿勢で乗せるようにする。 ○ 慣れたら、手が向こう側の床に付くまで大きく揺らすようにする。 ○ 初めは、チューブの中に腹ばい姿勢で寝かせ、左右にシーソーのように動かし、慣れたら順次回転させるようにし、不安感を持たせないようにする。 ○ 転がる動作に合う歌やリズムを付けながら楽しんで転がれるようにする。 	<p>・チューブトンネル</p>
<p>3. チューブブランコに腹臥位や座位で乗って揺らす。</p> <p>(1) 背中に乗せてもらってチューブブランコに乗り、揺らしてもらおう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 慣れない子どもは、揺れ木馬から始めるとよい。 ○ 安全面から下にマットを敷くようにするとよい。 ○ タイヤチューブの高さは、初めは揺らしても十分足が届く程度にして不安感を与えないようにし、慣れたらだんだん高さを上げてやる。 ○ 一人で乗ることを嫌がる子は、教師の背中に乗るようにして揺らしてやる。 	<p>・チューブブランコ</p>








主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(2) 一人でチューブブランコに乗り、揺らしてもらったり、回転させてもらったり、自分で揺らしたりする。</p>  <p>(3) 座位で乗り揺らしてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めは一人でこげないので、少し揺らしてやる。 ○ 教師は、顔の見える方にいて、近くと手を伸ばしたり、声かけをしたりして、不安感を除くようにする。 ○ 集団で行う場合付近に他の子どもを近づけないようにする。 ○ 歌をうたい、気持ちのよいように揺らしてやる。 ○ 小さく揺らしたり、回転したり、大きく揺らしたりしてリズムをつける。 ○ いくらでも刺激を求める子には、大きく揺らしてやったり、チューブの高さを高くしたりする。 ○ ハンモックでも同じような活動ができる。 	
<p>4. トランポリンで立位や座位で跳んだり寝ころんで揺すってもらったりする。</p> <p>(1) 教師と一緒に座位や背臥位になりトランポリンを揺すってもらう。</p>  <p>(2) 教師と一緒に立位で歩いたり跳んだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに合わせて、抱っこしてやる子どもを左右と傾けて揺すり、子どもの手を上げさせたり、身体の向きを変えさせたりして、トランポリンに慣れさせる。 ○ トランポリンは、強い前庭刺激があるだけでなく、バランスの向上、手足のバネの筋力の向上など運動能力の向上に、大変役立つといわれている。 ○ 最初は子どもの両手を取り、キャンバスから両足を離さずゆっくり上下動を起こして慣れさせ、だんだん高く跳んだり、歩いたりする。 ○ リズムをとったり、歌をうたったりしながら楽しく跳ばせる。 	<p>・トランポリン</p>

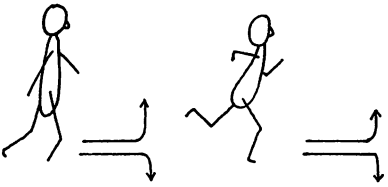
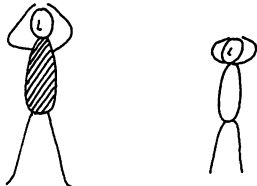

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(3) 一人で歩いたり、立位や座位や背臥位で跳んだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩くときは、初め、ささえ棒につかまって歩かせ、不安を抱かせないようにする。 ○ 座位や背臥位の際は、教師がキャンバスを揺すってやる。 ○ 初めは、自由に上下に跳ばせ、慣れてきたら、高く跳んだり、前後左右の方向へ自由に跳んだり、跳びながら回ったりさせる。 	
<p>5. ローリングシーソーに乗り自分で動かしたり、回転させてもらったりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ローリングシーソーに慣れさせるため、初めは一人で乗せ、自由に遊ばせる。 ○ 座位や背臥位で乗せ、左右に回転させると、強い前庭刺激が得られる。 ○ 強い刺激のため、乗っている子どもの様子や健康などに注意する。 	<p>・ローリングシーソー</p>
<p>6. 身体を揺すってもらったり回してもらったりする。</p> <p>(1) ひざの上で揺すってもらったり、抱っこしたり、おんぶしたりして揺すってもらう。</p>  <p>(2) 一人や二人の教師に手や足を持って揺すってもらったり、回してもらったりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スキンシップは、幼児期において欠くことのできないものであるが、これは、多量の前庭刺激や触刺激、聴覚刺激を含んでいる。 ○ 子どもが、心ちよいリズムで揺すってやるようにする。 ○ 子どもが怖がらないように配慮し、怖がる子どもは、十分スキンシップなどをして、教師に慣れてから行う。 ○ いくらでも刺激を求める子には、速度を上げてやったり、逆さづりに近い姿勢にしたり、両手両足を持って振りマットの上に降ろしてやったり、子どもが求めるだけの量を、十分に与える。 	

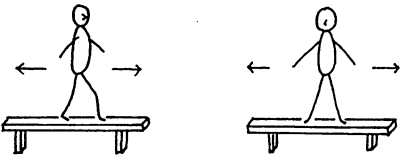

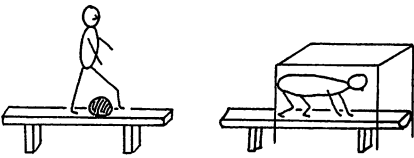
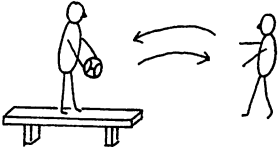
粗大運動段階


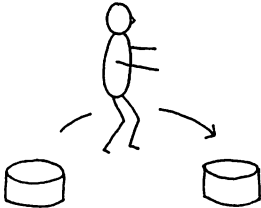
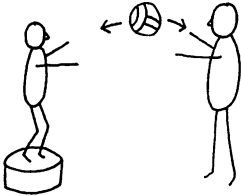
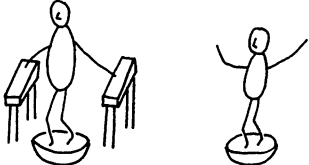

段階	粗大運動	領域	身体知覚を中心とした活動
目標	○ 筋の緊張や弛緩をしたり、いろいろな姿勢や動きなどを模倣したりすることを通して、身体知覚の形成を図る。		
主な学習活動・内容	留意点	準備等	
<p>1. 身体各部位の筋肉を緊張させたり弛緩させたりする。</p> <p>(1) 手を合わせて力を入れたり、緩めたりする。</p>  <p>(2) 頭をできるだけ前後・左右に倒す。</p>  <p>(3) 台を使って体を反らしたり、起き上がったたりする。</p>  <p>(4) 腹臥位、背臥位の姿勢をとる。</p> <p>(5) 力を抜いてマットに倒れる。</p> 	<p>○ 押す活動では、風船やスポンジ等を両手で挟みつけるようにさせる。</p> <p>○ 腕の弛緩がうまくできない子どもは、ゆっくりと背臥位の姿勢をとらせて、全身が弛緩できるようにする。</p> <p>○ 前後に頭を倒す際は、つま先や天井からつるしたボールを見させるようにし、可能な限り倒せるようにする。</p> <p>○ 立位での安定感がない子どもは、教師が腰を押さえたり、座位姿勢をとらせたりする。</p> <p>○ 初めは、頭部から反らすようにさせ徐々に、反らす部位を増やしていく。</p> <p>○ 教師は、脚部を押さえておき、反らさせる時に、1, 2, ……5と数えるようにする。</p> <p>○ 静かな音楽をかけて、緊張感をなくすようにし、開眼でも閉眼でも行う。</p> <p>○ エアーマットやベッドなどを利用して、抵抗感を柔らかげ、ゆっくり倒れさすようにする。</p>	<p>・風船</p> <p>・スポンジボール</p> <p>・ボール</p> <p>・いす</p> <p>・台</p> <p>・ベッド</p> <p>・カセットテープ</p> <p>・エアーマット</p> <p>・ベッド</p>	


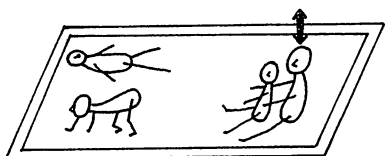
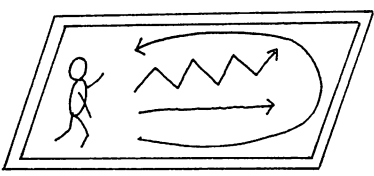
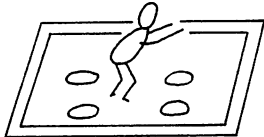
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>2. いろいろな姿勢をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ シャガみ姿勢 ○ 立てひざ   <ul style="list-style-type: none"> ○ 四つばい ○ 高ばい   <ul style="list-style-type: none"> ○ 腕立て姿勢 ○ 飛行機   <ul style="list-style-type: none"> ○ V字バランス ○ 三点支持   <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆりかご ○ かかし   <p>3. 模倣歩きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アヒル歩き ○ ニワトリ歩き  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立ったり、しゃがんだり、四つばいになったりする動きを模倣遊びの中に取り入れ、教師の姿勢と同じ姿勢をとることが遊びの約束であることを知らせる。 ○ 動きの少ない子ども、あるいは動こうとしない子どもには、手をとったり体を支えたりする。 ○ 動き方のわからない子どもには、教師が姿勢や動きの示範を示したり、声かけをしたりしながら補助を行う。 ○ 子どもに自分の姿勢がどうなっているかわからせたり、示範との違いに気づかせたりするために、鏡の前でいろいろな姿勢をとらせて、教師の姿勢と比べさせる。 ○ マットやスポンジマットなどを準備し、安全面に注意する。 ○ 姿勢をとる回数は、いろいろな動きに慣れさせるように、また、動きが楽しくできるように配慮しながら個別的に設定する。 ○ 動きがわかるように、動きの大きさや速さに気をつけながら示範をし、模倣させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡(姿見) ・マット ・スポンジマット

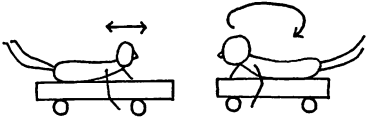

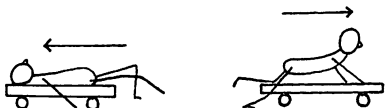
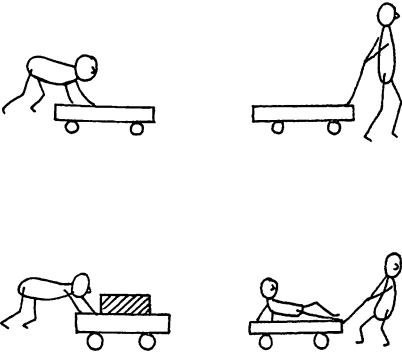
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>○ カニ歩き ○ ウサギとび</p>   <p>○ ひざ立ち歩き</p>  <p>4. 左右の使いやすい手や足を動かす。</p> <p>(1) 手にこん棒や砂袋などを持って動かす。</p>  <p>(2) ボールを投げたり, 打ったりする。</p>   <p>(3) 左, 右の方向へ曲がる。</p> <p>ア その場で90度, あるいは180度回転する。</p> 	<p>○ 動物の鳴き声や擬態語を言わせたり声かけしたりして, 動きに調子をとらせるようにする。</p> <p>○ ひざ立ち歩きをさせる際は, マットを準備し安全に行わせる。</p> <p>○ 慣れてきたら, けんけんやスキップ, ギャロップなど, いろんな走り方へと発展させていく。</p> <p>○ ここでは, ラテラルリティの発達を促すために, 利き手や利き足などを使った活動をするが, まだ利き手や利き足など定まらない子どもには, 使いやすい手や足を使わせるとよい。</p> <p>○ 動きは, 肩の水平になる所までの上下の動きを基本として, 「右」「左」の言葉と結びつけるようにする。</p> <p>○ こん棒や砂袋などの重さを軽くしていくことで, 意識的に手を動かさせ, 左右の区別を図る。</p> <p>○ ボール投げは, 両手を使うことから始め, 次第に片手投げへと指導していく。</p> <p>○ 最初は, 左右へぐるぐる回ることから行い, 1回転で止まるようにする。</p> <p>○ 指示のわかりにくい子どもには, 左右方向への矢印や, 90度と180度地点の足形を床にかいておくとよい。</p>	<p>・マット</p> <p>・こん棒</p> <p>・砂袋</p> <p>・ボール</p> <p>・バット</p>

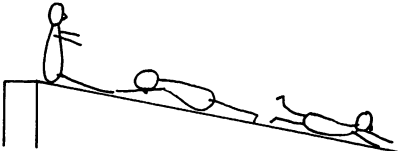
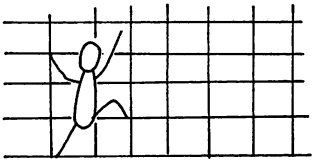
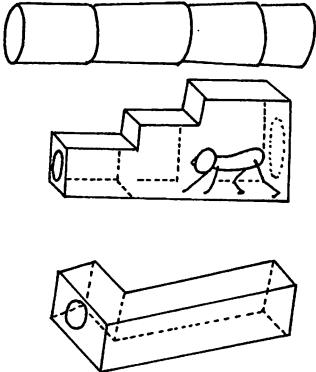
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>イ 歩いたり、走ったりしながら左右の方向へ曲がる。</p>  <p>5. 身体各部位を動かしたり、捜したりする。</p> <p>(1) 教師と向かい合って模倣する。</p> <p>ア 頭、首、腰などの部位に手で触れたり、動かしたりする。</p>  <p>イ 顔の部分（目、耳、鼻など）に触れたり、部分をつまんだりする。</p>  <p>(2) 教師の指示で身体を動かしたり、捜したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 触れた部位 ○ 言葉や絵カードで指示した部位 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要領のわかりにくい子どもには、曲がる方向の手を挙げさせたり、一緒に教師が歩いたりする。 ○ 指示は、できるだけ急に出さずに、「今度は右（左）に曲がります。曲がれといってから曲がりなさい。」というように、あらかじめ知らせておく方がよい。 ○ 最初は、両手で、各部位に触れたり、たたいたりし、次第に、片手で触れるようにしていく。そして、触れた部位を動かしていくようにするとよい。 ○ 慣れてきたら、鏡の前で教師と一緒にすることで、身体知覚の形成を視覚的に促す。 ○ 最初は、右手で右目というように同側的に行い、次第に、右手で左目といった交差的な活動へと発展させる。 ○ 子どもたちが、慣れたら「トントントンひげじいさん」などのリズムに合わせてやり、興味・関心を持たせるとよい。 ○ 指示のわかりにくい子どもには、部位にシールをはったり、鈴をつけたり、部位を布でまいたりして知らせる。 ○ 絵カードは、子どもたちの身体を型どりしたような、実物大のものがよい。 ○ 知覚・運動段階の空間における位置の領域、国語科の「自分のからだ」との関連を考慮する。 	<p>・鏡</p> <p>・絵カード</p>

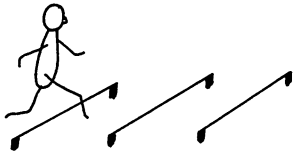
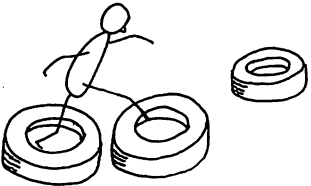
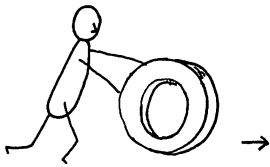
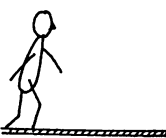
段階	粗大運動	領域	運動企画の形成を中心とした活動
目標	<ul style="list-style-type: none"> 平均台やバランスボウルなどの上で安定したバランス姿勢を保持したり、ジャングルジムやトンネルなどを使って移動運動をしたりすることにより、平衡性や協応性を養う。 		
主な学習活動・内容	留意点	準備等	
<p><平衡性></p> <p>1. 平均台を使って活動する。</p> <p>(1) 平均台の上を横・前・後ろ向きで歩く。</p>  <p>(2) 平均台の上を四つばいで歩く。</p>  <p>(3) 障害物を越えたり、くぐったりして歩く。</p>  <p>(4) 平均台の上でボールの投捕をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で平均台の上を歩けない子どもの場合は、補助をしながら歩かせるようにする。 幅の広い平均台や高さの低い平均台から取り組ませるようにする。 平均台の上での四つばい姿勢が困難な子どもは、低くて大きな台などを利用させる。 慣れてきた子どもには、傾斜を加えた平均台等を使用させる。 障害物は徐々に大きくしていくが、安全面には十分に留意する。 トンネルの中が暗くならないようにトンネルはビニールを張った物を使用して安心感をもたせる。 教師がボールを投げる際は、まず、胸のあたりを中心にする。そして、徐々に、投げる位置を身体の左右に広げるようにする。しかし、頭の上はあまり高すぎると平均台から落ちる危険があるので注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均台 お手玉 箱 ビニールトンネル ボール 	

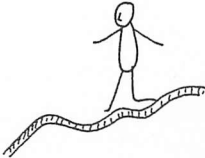


主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>2. ジャンピング台を使って活動する。</p> <p>(1) 両足で跳ぶ。</p>  <p>(2) ジャンピング台を跳び移る。</p>  <p>(3) ジャンピング台の上でボールの投捕をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジャンピング台での立位姿勢の保持が困難な場合は、まず、三つ折り程度に折りたたんだマットなどを利用するとよい。 ○ 補助されながら、あるいは一人で跳ぶ時に、できるだけリズムに合わせて回数を決めて跳ぶようにさせる。 ○ 台から台への移動は、不安定な姿勢になるので、はじめは、距離を短くして歩いて移ることから始める。 ○ 跳び移ることに慣れてきたら、ジャンピング台を3～4台準備し、リズムカルに移動できるようにする。 ○ 補助者がボールを投げる際は、まず胸のあたりを中心にする。そして、徐々に、体の左右に投げる位置を広げ、左右の手が体の中心を越えるようにさせる。 ○ ボールの重さや大きさ、材質などをいろいろ変化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンピング台 ・マット ・ボール (大・小)
<p>3. バランスボウルを使って活動する。</p> <p>(1) 両足で立ちながらバランスをとったり、体を横にねじったりする。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ○ バランスのとりにくい場合は、補助者が手を持ってやるか、または、机等を利用し身体を支持させる。 ○ 補助なしでできる場合は、立位から座位、座位から立位へとボード上での姿勢を変化させたり、手を上下、左右に動かしたりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボウル ・ボール

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(2) バランスボウルを裏返しにして、その上で、いろいろな姿勢をとる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平らな台や跳び箱（一段）などを利用し、姿勢の変化に慣れさせてから、バランスボウルへ移行させるとよい。 ○ 動的な平衡感覚が身についている子どもには、左図のような静的な平衡感覚も与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボウル
<p>(3) ボールの投捕をする。</p> <p>4. トランポリンを使って活動する。</p> <p>(1) トランポリンの上でいろいろな姿勢保持をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢保持ができるようになったら、ボールの投捕へと発展させる。 ○ トランポリンをゆっくりと振動させながら、姿勢を保持させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール（大・小） ・トランポリン
<p>(2) トランポリンの上を歩く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 座位での姿勢保持ができない子どもは、過緊張にならないように、子どもに合わせて振動を与えたり、身体を支えたりして、安心感をもたせる。 ○ 不安定な状態での歩行であるので、ゆっくりと歩かせる。 ○ 慣れてきたら、リズムや速さに変化を与える。 	
<p>(3) リズムに合わせて前後・左右方向に跳ぶ。</p>  <p>(4) トランポリンの上で跳びながらボールの投捕をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ トランポリンの上に、印をつけ、着地する位置を示しておく。 ○ いろいろな方向へ身体を移動させることで、方向感覚を養う。 ○ 最初は、一番安定した姿勢で行う。 ○ トランポリンの中央部で跳ばすように、教師はボールを投げるときの位置に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・印 ・ボール（大・小）

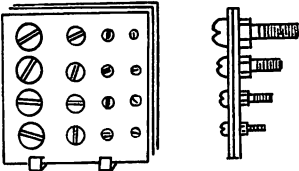

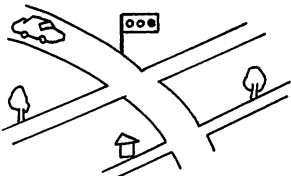
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p><協応性を中心とした活動></p> <p>1. スクーターボードを使って活動する。</p> <p>(1) いろいろな姿勢でスクーターボードに乗り、手でこいで移動したり、回転したりする。</p> <p>○ 腹臥位 ○ 背臥位 ○ 座位</p>  <p>(2) ロープや壁をつたって移動する。</p>  <p>(3) 足でけりながら進む。</p>  <p>(4) スクーターボードを押ししたり、引いたり、物をのせて運んだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 固有覚への刺激を中心運動企画の促進をねらいとするため、傾斜のない床などを利用する。 ○ 移動する方向や距離がわかりやすいように、床や壁、ロープなどに目印をつける。 ○ 両手で同時にこぐことから、左右交互にこいでいくようにさせる。 ○ ロープの太さは子どもの握りやすいもの（直径2.5～3.0 cmぐらい）を選ぶ。 ○ 壁側にマットを用意し、安全面に配慮する。 ○ 子どもが姿勢を保ちにくい時は教師が補助したり、一緒に乗って活動したりする。 ○ 子どもが慣れてきたら、棒を使ってこがせたり、リレーをさせたりする。 ○ 子どもたちが、互いにぶつからないように、教師がコースを設定したり、スクーターボードにクッションをつけたりして、安全面に配慮する。 ○ 高ばい姿勢で押すのが難しい子などには、取っ手を付けるなどの工夫をする。 ○ 引く時に使うロープは、あまり長すぎないように（約1 mくらい）して、コントロールがうまくできる長さに調節する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーターボード ・ロープ ・マット ・棒



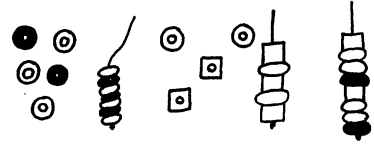
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>2. 滑り台を使って活動する。</p> <p>(1) 階段やスロープを上ったり下りたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前向き ○ 後向き <p>(2) スロープをいろいろな姿勢で滑る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一段ずつ、確実に手でつかみ、しっかりと足をのせて上り下りさせる。 ○ 慣れてきたら、両手・両足を協応させて、リズムカルに上り下りさせるようにする。 ○ 滑べる速さを調整するために、滑り台のふちを手で握ったり、足で押さえたりさせる。 ○ 滑り台の途中にビニールでおおったトンネルを置き、座位で滑りながら背が臥位へと姿勢を変化させ、目と体幹との協応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑り台 ・ビニールトンネル ・スロープ
<p>3. ジャングルジムを使って活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 両手両足を協応させて横移動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジャングルジムの側面を利用して、両手・両足を協応させながら、横に移動させるが、足の運びが不安定な場合は、地面に引いた線に沿って移動させる。そして、徐々に高さを加えていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャングルジム ・ライン引き ・平均台
<p>4. トンネルを使って活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トンネルくぐり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カラートンネル、段ボール、机、ビニールトンネルなどのいろいろなトンネルを準備し、様々な大きさの穴に合わせてくぐり方を工夫させる。 ○ トンネルの壁に、いつもぶつかってしまう場合は、初めにフロアでの四つばい歩行を十分に行わせるようにする。また、短いトンネルや補助者のトンネル（大人が四つばい姿勢になったトンネル）などで遊ばせるようにする。 ○ 慣れてきたら、傾斜面に置いたトンネルやL字トンネルなどへ発展させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カラートンネル ・段ボール ・机 ・平均台 ・マット ・ビニールトンネル

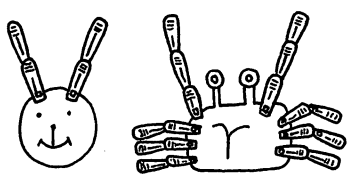

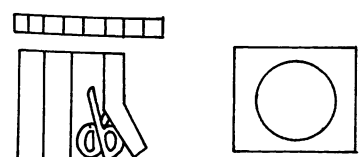
主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>5. ミニハードルを使って活動する。</p> <p>(1) ミニハードルをまたいで歩く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ミニハードル (小) ○ ミニハードル (大) ○ 組み合わせたもの  <p>(2) ミニハードルを跳び越す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 片足踏み切り ○ 両足踏み切り <p>6. タイヤを使って活動する。</p> <p>(1) タイヤの踏み渡りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直線に並べたタイヤ ○ ジグザグにおいたタイヤ  <p>(2) タイヤを転がす。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちに不安感をもたせないように、最初は低く、1～2個から始め、徐々に高くしたり、個数を増やしたりする。 ○ 慣れてきたら、ミニハードルの間隔を狭くしたり、合図に合わせて、リズムカルに歩くようにさせたり、手にこん棒を持たせたりする。 ○ ミニハードルは、足にかけても安全なように、たおれやすいものを作る。 ○ タイヤの踏み渡りが不安定な子どもには、フープなどを利用し、中心部の穴から穴へとまたいで歩くことから始める。 ○ タイヤに着色することで、タイヤを意識させるなどの工夫をし、目と足の協応動作の形成を図る。 ○ スムーズに行く子どもは、リズムに合った渡り方ができるようにさせる。 ○ タイヤは、子どもの身体に合った大きさのものを選び、自由に転がすことからさせる。慣れてきた子どもには、直線やジグザグのコースを設定したりタイヤを大きくしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニハードル (大・小) ・こん棒 ・古タイヤ ・フープ
<p>7. ロープを使って活動する。</p> <p>(1) ロープに沿って歩く。</p>  <p>(直線)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが、転ばないように、ホースなどの柔らかいロープ状のものから使うとよい。 ○ 最初は、両足の間にロープを挟むようにまたいで歩き、徐々にロープの上を歩くようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープ ・ホース

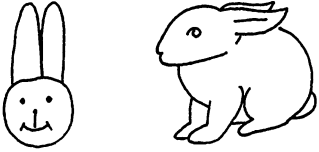
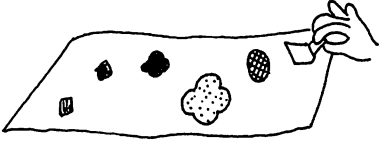
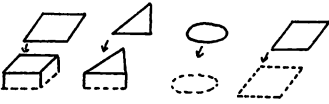
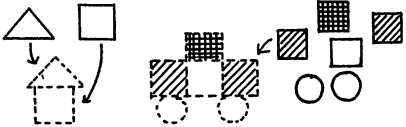
主な学習活動・内容	留意点	準備等
 <p>(曲線)</p> <p>(2) ロープをまたぎ越したり、くぐったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロープの特性を生かし、直線からいろいろな曲線へと発展させ、できるだけ、子どもたちにロープの道作りをさせるようにすることで、興味を持たせる。 ○ 素足で歩かせるようにして、ロープを意識させ、目と足の協応を促すようにする。 ○ ロープに目印になるもの(布切れや鈴など)をつけて、子どもたちのロープへの意識を促すようにする。 	
<p>8. はしご(ラダー)を使って活動する。</p> <p>(1) 床に置いたはしごのさんぐの間を渡る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 四つばい ○ 高ばい ○ 立位 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが受け入れやすいように、地面にラインをひいたものからさせる。 ○ 四つばいや高ばいなど、ネコやウマなどの面を与えて楽しく活動できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご(ラダー) ・動物の面
<p>(2) 傾斜したはしごを上り下りする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 跳び箱などを使って傾斜をつくるが傾きは徐々に与えていくようにする。 ○ はしごのさんに、すべり止めなどを施したり、下にマットを敷いたりして安全面に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱

知覚・運動段階

段階	知覚・運動	領域	目と手の協応を中心とした活動
目標	輪郭をなぞって色塗りをしたり、ビーズ通しをしたり、はさみで切ったりする活動を通して、目と手の協応力や集中力を養う。		
	主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>1. 手、指遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「げんこつ山のためきさん」 ○ 「おはなしゆびさん」 ○ 「こびとさん」 など <p>2. ボルト・ナット通しをする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>3. 指なぞりをする。</p> <p>(1) はめ込み板の図形の周囲をなぞる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(2) 用紙にかかれた道路や線路の上を、ミニカーや汽車等を押して走らせる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(3) クレヨンや鉛筆で、図形や事物の周囲をなぞる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師も歌をうたいながら大きな動作をし、リズムに合わせて、手、指の協応動作をするおもしろさを味わわせる。 ○ 色、形、大きさの違うボルト・ナットを準備し、弁別を促しながら通させる。 ○ ボルトとナットは、緩まないようにしっかりと固定させる。 ○ 指なぞりは、形の感覚や視覚と運動の協応をよくするとされている。 ○ はめ込み板のくぼんだ所にしっかり指をあててなぞらせる。それに慣れたら、紙にかいた図形の周囲をなぞらせる。 ○ 道路や線路には、信号機や遮断機をかいて、楽しみながら、ミニカーや汽車を走らせることができるようにする。しかし、それらが刺激となって集中できない場合には、道路や線路のみにする。 ○ 道路や線路の幅は個人差に応じて変え、はみ出ないで走るようにさせる。 ○ 指なぞりや、線路たどりなどに慣れたら、クレヨンや鉛筆で、線をよく見てなぞらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボルト ・ナット ・はめ込み板 ・ミニカー ・汽車 ・道路や線路をかいた紙 ・クレヨン ・鉛筆 	

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>4. 輪郭なぞりと色塗りをする。</p> <p>(1) 簡単な輪郭のものをなぞって色を塗る。</p>  <p>(2) 複雑な輪郭のものをなぞって色を塗る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○, △, □などの基本形の輪郭をなぞらせる。 ○ 輪郭は、点線で表し、巧み性の乏しい子どもには、幅が広く、間隔の狭い点線のことを、太字用のペンでなぞらせ、色塗りさせる。 ○ 子どもたちの好きな動物や乗物などの絵を準備してなぞらせる。 ○ 輪郭線からはみ出ないように注意して、丁寧に色塗りさせる。 ○ 色塗りに慣れたら、塗る色の数を増やし、部所によって塗り分けるなど、色塗りの楽しさを味わわせながら、きれいに仕上げていくように促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペン ・太字用細字用 ・クレヨン
<p>5. ビーズ通しをする。</p> <p>(1) 大きなビーズを、ひもに通す。</p> <p>(2) 決められた色、形のビーズを、ひもに通す。</p>  <p>(3) 小さなビーズを、糸に通す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めは、針金の入った硬いひもに、木製のビーズを通させ、慣れてきたら柔らかい素材のものを使用させる。 ○ 形は同じで色の違うビーズを交互に通す、色は同じで形の違うビーズを交互に通す、色と形を組み合わせるなど、巧み性ととも、色、形の弁別や系列の記憶も促していく。 ○ ビーズを通して首飾りや腕飾りにするなどの目標をもたせ、意欲的に活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなひも ・いろいろなビーズ（硬さ、色、形、大きさの違うもの） ・糸





主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>6. はさみで、紙を切る。</p> <p>(1) 洗たくばさみ留めをする。</p>  <p>(2) 自由に紙をちぎる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ちり紙 ○ 新聞紙 ○ 包装紙 ○ 色紙 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(3) 粘土をはさみで切る。</p>  <p>(4) 自由に紙を切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色紙 ○ 画用紙 ○ 包装紙 ○ ざら紙 ○ 厚紙 <p>(5) 線にそって切る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直接はさみを操作する活動をする前に、指先の力を強くしたり、手指の円滑な操作を促したりするために、洗たくばさみ留めをするとい。 ○ 動物の顔をかいた紙に洗たくばさみを留めると耳や鼻になるようにし、楽しく活動できるようにする。 ○ いろいろな材質，色，模様の紙を多く準備し，思い思いにちぎらせる。 ○ 力強く一気にちぎらせたり，少しずつゆっくりちぎらせたりし，手指の力の入れ具合を加減させる。 ○ はさみで一回切りできるぐらいの太さにし，ひも状にした粘土を切る活動は，紙を切る活動よりも容易であり，はさみを操作する活動の導入として有効である。 ○ いろいろな紙を自由に切らせることにより，切り方や力加減を工夫させる。 ○ はさみの先は人のいる方に向けない，刃の近くは触れないようにするなど，安全面にも留意させる。 ○ 一回切りや直線に沿って切ることから始め，曲線に沿って切る，○，△，□などの簡単な形を切り抜くことへと徐々に難易度を増すようにする。 ○ 開閉の使い方が不十分であったり，刃の間に紙がはさまったりする子どもには，訓練用のはさみも使用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗たくばさみ ・画用紙 ・ダンボール紙 ・いろいろな紙 ・粘土 ・はさみ ・皿 ・いろいろな紙 ・画用紙 ・訓練用のはさみ

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(6) 動物や乗物などの形を切り抜く。</p>  <p>7. 紙をはる。</p> <p>(1) 紙切れや布切れなどを、大きな紙の上に自由にはる。</p>  <p>(2) 輪郭の上にそれと同じ形に切り抜いた紙をはる。</p>  <p>(3) 模様の模倣をしてはる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの好きな動物や乗物などの絵を準備する。絵は、簡単なものから、複雑なものまで準備し、個人差に応じて選べるようにする。 ○ 切り抜く際は、輪郭線を、よく見て、ゆっくりと正確に切るように注意する。 ○ 大きな紙を広げ、好きなところに自由にはれるように広い場所で行う。 ○ のりは、適量を、切れ端のすみずみまでのばすように注意する。 ○ 初めは、輪郭の上に三次元のもの置いて、形を認識させ、次に、厚紙の切り抜きを使って同様な活動をさせる。 ○ ○、△、□などの形を切り抜ける子どもには、6で、自分で切ったものをはらせる。 ○ ○、△、□などの形を2、3枚組み合わせ合わせた簡単な模様から始め、次第に色や形を組み合わせ合わせた複雑な模様にしていく。 ○ 色や形をよく見て、同じものをはるように注意する。 ○ 7まで通過したら、「学習ブック初級」の「目と手の協応」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や乗物などの絵 ・紙切れ ・布切れ ・大きな紙 ・のり ・手ふき ・輪郭をかいた紙 ・切り抜き ・模様の見本 ・フロステイグ視知覚学習ブック


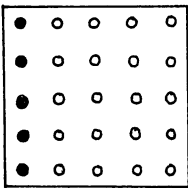
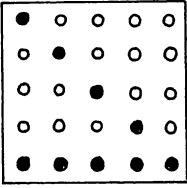
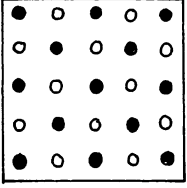
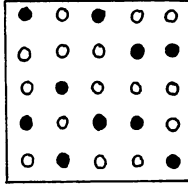
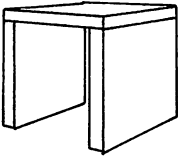
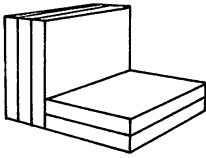
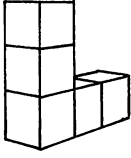
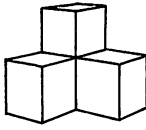
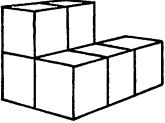
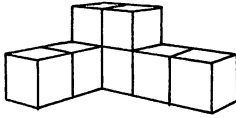
段階	知覚・運動	領域	図形と素地の知覚を中心とした活動
目標	いろいろな具体物を、感触、大きさ、形、色などの特定の刺激に集中して弁別したり、分類したりする活動を通して、図形と素地の知覚を促す。		
	主な学習活動・内容	留意点	準備等
	<p>1. 具体物を使って弁別活動をする。</p> <p>(1) 感触の違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビロードの中に入っている毛布 ○ ダンボール紙の中に入っている板 ○ 用紙の中に入っている画用紙 など <p>(2) 大きさの違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小さい積木の中に一個入っている大きな積木 ○ 大きいボールの中に一個入っている小さいボール など <p>(3) 形の違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 丸い色板の中に一個入っている四角い色板 ○ 犬のカードの中に一枚入っているうさぎのカード など <p>(4) 色の違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 赤いおはじきの中に一個入っている黄色いおはじき ○ 白い紙の中に一枚入っているクリーム色の紙 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物は、扱いやすい大きさのものを準備し、感触の明確に違うものから少し違うものを探し出すようにしていく。 ○ 大、小の積木を一つずつ提示し、大きな積木を取ることを確認させた後、小さな積木の数を多くする。 ○ 形、色の同一のものを準備し、大きさの違いに着目して探せるようにする。 ○ 丸い色板と四角い色板を一つずつ提示して、四角い色板を取ることを確認させた後、丸い色板の数を多くしていく。 ○ 大きさ、色の同一のものを準備し、形の違いに着目して探せるようにする。 ○ 大きさ、形が同一で、色の違うおはじきを準備する。 ○ おはじきは、横一列に等間隔に並べたり、密集して並べたり、箱に入れたりして、探し出しゲームを行い、どんな場合からでも弁別できるようにする。 ○ 弁別する色は、明確に違う色から、少し違う色へと移行させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビロード ・毛布 ・ダンボール紙 ・板 など ・大、小の積木 ・大、小のボール など ・色板 丸 四角 ・絵カード など ・色の違うおはじき ・色紙 など

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>2. 具体物を使って分類活動を行う。</p> <p>(1) 感触の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色紙と色板 ○ 粘土のだんごと小石 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(2) 大きさの違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大, 小の積木 ○ 大, 小の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(3) 形の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボールと立方体の積木 ○ ○, △, □の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(4) 色の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おはじき ○ 色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(5) 感触, 大きさ, 形, 色などが, 総合されたもので分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 赤い粘土のだんごとそうでないもの ○ 木製で大きく, 赤い立方体の積木とそうでないもの <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形, 大きさ, 色の同一のものを準備し, 感触の違いに着目して分類させる。 ○ 見たり触ったりして分類することに慣れたら, 不透明の柔かい袋に入れて, 上から触ったり, 中に手を入れて触ったりして分類させる。 ○ 形, 色の同一のものを準備し, 大きさの違いに着目できるようにする。 ○ 極端に大きさの違うものの分類から始め, 次第に, その差を小さくしていく。 ○ ボールと積木を一つずつ提示し, 名称を言わせたり, 転がしてみたりして異なることを確認し, 分類させる。 ○ 二種類の分類に慣れたら, 他に形の違うものを準備し, 分類数を増やしていく。 ○ 初めは, 大きさ, 形が同一で, 色の違うもので分類を行い, 慣れたら, 少しずつ, 大きさ, 形, 感触の違うものを準備し, 色の違いのみに着目して分類する活動も行っていく。 ○ (1)から(4)を十分行った後, いろいろな変数の含まったものを使って分類活動を行わせる。 ○ 2まで通過したら, 「学習ブック初級」の「図形と素地」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色紙 ・色板 ・粘土のだんご ・小石 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大, 小の積木 ・大, 小の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール ・いろいろな形の積木 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじき ・色板 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロステイグ視知覚学習ブック

段階	知覚・運動	領域	知覚の恒常性を中心とした活動
目標	いろいろな図形を扱うなかで、それらの名称を知ったり、大きさ、形、色ごとに分類したりする活動を通して、知覚の恒常性を養う。		
主な学習活動・内容	留意点	準備等	
<p>1. 三次元の事物の視覚像を二次元の平面図に置き換える（この逆も行う）。</p> <p>(1) 身のまわりの事物を写真や絵、図に置き換える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時計（実物）→写真→絵→図(円) ○ 丸、三角、四角の積木→図 <p>(2) 絵や図から三次元の事物をさがす。</p> <p>2. 大きさ、形、色による分類をする。</p> <p>(1) 大きさによる分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの事物で大小を分類 ○ 三つの事物で大中小を分類 ○ 四つあるいは五つの事物を小さいものから大きい順（この逆も行う） <p>(2) 形による分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ形のものの発見 ○ 同じ形のものどうしの集合づくり <p>(3) 色による分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ色のものどうしの集合づくり <p>3. 色々な図形や立体を扱う。</p> <p>(1) 図形を自由に扱い特徴や名称を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円、○正方形、○三角形、○十字形 ○ 星形、○長方形、○半円、○だ円形 <p>(2) 似たような図形の相違点に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 円とだ円 ○正方形と長方形 ○ 正方形とひし形など <p>(3) 立体を自由に扱い特徴や名称を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 球、○立方体、○円柱、○円錐 ○ 三角柱、○三角錐など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの中には事物は見慣れているのにその事物の絵は認知できない者がいる。そこで、これらを結びつけられるようにする。 ○ 実物と絵カードのマッチング等の活動を繰り返し行わせる。 ○ 子どもに大きさの非常に違う事物を2個見せ、大きい方を指ささせる。できるようになったら、2個の事物の大きさの差を次第に小さくしていく。 ○ 子どもたちに幾何学図形を示し、教室内のものでそれと同じ形のものを見つけさせる。(例) 長方形 — 机、本 ○ 算数・数学の指導計画の「なかまあつめ」の題材も参考にする。 ○ 知覚の恒常性を養う活動は、大きさ、形、色の識別に役立つとともに二次元の平面上に描かれた三次元の事物や三次元の中の二次元平面の認知に役立つ。 ○ 名称を学習する際には一度に1～2種類しか扱わないようにする。また、「丸」「四角」等のいい方も認める。 ○ 各図形や立体は子どもたちがある一つの方向からだけ認知することを学習しないように色々な方向から提示する。 ○ 3まで通過したら「学習ブック初級」の「知覚の恒常性」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時計 ・ボール ・本等 ・絵カード ・絵カード ・図形カード ・色カード ・型はめ板 ・型板 正方形 三角形 円等 ・立体 球等 ・フロステイグ視 知覚学習 ブック 	

段階	知覚・運動	領域	空間位置・関係の知覚を中心とした活動
目標	自分の身体を事物との関係において動かしたり、具体物どうしていろいろな形をつくったりすることを通して、空間における位置・関係の知覚の素地を養う。		
主な学習活動・内容	留意点	準備等	
<p>1. 自分の身体を動して身体と事物との相対的な位置関係を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いすの<u>上</u>にのぼる」 ○ 「机の<u>下</u>に入っている」 ○ 「机の<u>前</u>（後）に立つ」 ○ 「輪の中に入っている」 ○ 「輪の<u>外</u>に（へ）出る」 など <p>2. 自分の身体の左右を識別する。</p> <p>(1) 歌に合わせて動作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 右手 ○ 左手 ○ 右足 ○ 左足 <p>(2) 絵を見て右手、左手を当てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  左手 </div> <div style="text-align: center;">  左手 </div> <div style="text-align: center;">  右手 </div> <div style="text-align: center;">  右手 </div> </div> <p>(3) 指示されたとおり手足を動かしたり、身体の各部分をさわったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「右（左）手を挙げなさい」 ○ 「右（左）足をもちあげなさい」 ○ 「右（左）の耳をさわいなさい」 ○ 「右（左）手で左（右）の耳をさわいなさい」 <p>3. 自分の左側にある事物と右側にある事物を識別する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これらの活動は、最初、教師が動作と言葉を連合させて模範をみせる。子どもたちが慣れてきたらゲーム形式でやらせてもよい。 ○ 言葉と動作と位置が連合するように動作を行っている時にやっている子どもたちに言わせるようにする。 ○ 子どもたちに「アブラハムの子ども」の歌をうたわせながら動作をさせる。 アブラハムの子ども 歌詞「アブラハムには7人の子 1人はのっぽであとはちび みんな元気にくらしてる さあ踊りましょう 右手、右手、左手、左手、 右足、右足、左足、左足」 ○ うまく答えられない場合には、「君の手が絵と同じに見えるように君の手を絵の近くに置いてごらん」と言い、絵と同じように手のひらを上にむけたり下にむけたりさせる。 ○ 教師の指示する動きの絵カードを準備しておくようにする。 ○ 粗大運動段階の身体知覚の領域の指導計画とも関連をもたせるようにする。 ○ 身体知覚を養うような内容は、空間における位置や空間関係の知覚の発達に役立つといわれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いす ・机 ・輪 等 ・カセットテープ ・絵カード ・絵カード 	

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(1) 部屋の中や運動場の事物について右、左を判断する。</p> <p>(2) 指示されたとおりの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「前へ進みなさい。右へ曲がりなさい。前へ進みなさい。左へ曲がりなさい。」 ○ 「自分の机の左（右）側に立ちなさい。」 <p>4. 事物相互の位置関係を識別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二つのおもちゃ <div data-bbox="198 682 562 813" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「右（左）側は何ですか」 ・ 「車（人形）はどちら側ですか」 <p>5. 絵カードや言葉の指示にしたがい、図形を回転したり並びかえたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人形（例） <div data-bbox="192 1107 610 1205" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正方形、三角形（例） <div data-bbox="157 1283 624 1519" data-label="Image"> </div> <p>6. 絵カードや言葉の指示にしたがい、積木を並べる。（例）</p> <div data-bbox="164 1646 624 1754" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 識別する事物の方にある腕でその事物を指ささせ、右、左を判断させる。 ○ プレイルームの床や運動場に1m幅の道路（十字路、T字路を含む）をかいておき、歩かせる。 ○ 最初は、指示に即して左右の手を挙げさせてからそれぞれの活動をさせるようにする。 ○ 自分の身体の左右を十分に識別できるようになってからこの活動に入るようにする。 ○ 二つの事物の間に子どもを立たせ、指示された事物に近い方の手でその事物をとらせ、右、左を判断させたり、その名称を言わせたりする。 ○ 厚紙で作った同一の型の人形や正方形、三角形等を任意の位置や向きに置いて子どもに示し、教師が提示する絵カードや指示した言葉どおりに回転させたり並びかえさせたりする。 ○ 水平、垂直、逆さ、斜めなど色々な方向に回転させる。 ○ 提示する絵カードや言葉は次第に複雑にしていく。 ○ 例ア 「長い積木を横に置きなさい。そして、小さい積木を左上にのせなさい。」 ○ 6まで通過したら、「学習ブック初級」の「空間における位置」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ ・自動車 ・人形等 ・積木（色違い） ・絵カード ・図形 ・人形 ・正方形 ・長方形 ・菱形 ・正三角形 ・直角三角形 ・外 ・積木 ・フロステイグク視 ・知覚学習ブック

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>7. 色のついた積木で手本や指示どおりに組み立て、相互の位置関係を知る。</p> <p>(1) 自由に積木で遊ぶ。</p> <p>(2) 指示どおりに組み立てる。</p> <p>(例) ○ 「赤い積木の上に青い積木を置きなさい。」</p>  <p>○ 「赤い積木はどこですか。」</p> <p>○ 「青い積木の下にあります。」</p>	<p>○ 自由に遊ばせる中で、上下、前後、左右等の位置関係を表す言葉かけを意識的に行う。</p> <p>○ この活動のほかにも「前・後」「左・右」等の関係もおさえさせる。</p> <p>○ 慣れてきたら積木の数を増やしたり位置関係を言葉で言わせたりする。</p>	<p>・色つき積木</p>
<p>8. 玉さし盤を使って手本どおりの模様をつくる。(例)</p> <p>(1) </p> <p>(2) </p> <p>(3) </p> <p>(4) </p>	<p>○ 初めは規則的な模様をつくらせ、次第に不規則にしていく。また、色数も次第に増やしていく。</p>	<p>・玉さし盤</p>
<p>9. 積木を使って手本どおりの模様をつくる。</p> <p>(1) </p> <p>(2) </p> <p>(3) </p> <p>(4) </p> <p>(5) </p> <p>(6) </p>	<p>○ 初めは簡単な模様をつくらせ、次第に複雑にしていく。</p> <p>○ 9まで通過したら、「学習ブック中級」の「空間関係」の項に進む。</p>	<p>・積木</p> <p>・色つき積木</p> <p>・フロステイグ視知覚学習ブック</p>